

認知症高齢者地域支援事業

高齢化の進展に伴い、認知症の高齢者も増えていくと予測される中、認知症高齢者とその家族が安心して暮らせる地域づくりが求められます。

また、認知症のために行方不明となることがあり、早期に発見・保護することが大切です。

1．認知症サポーターの養成

認知症の人とその家族を見守る地域の応援者である「認知症サポーター」の養成を図るため、市町村や企業における養成講座の実施を推進しています。

2．「行方不明認知症高齢者等SOSネットワーク」の構築

「行方不明認知症高齢者等SOSネットワーク」（認知症高齢者等が行方不明になった場合に、警察や市町村をはじめ、地域の関係機関や関係団体、住民等が連携し、行方不明者の早期発見・早期保護するためのネットワーク）が、県内すべての市町村で構築され、広域化が図られるよう取組みを進めています。

3．防災メール「まもるくん」による徘徊・行方不明者情報の発信

認知症の人が広域に移動している場合があるため、市町村が地域の事業者や団体、住民に対し、行方不明者の情報（身体的特徴や服装、写真など）の発信を行う際に、県の防災メール「まもるくん」を用いることで市町村の区域を越えた広い範囲に情報発信できるようにしています。

行方不明者のより早い発見につながるよう、県の防災メール「まもるくん」の市町村による積極的な活用とともに、メール受信者の登録の増加を図っています。

「防災メール・まもるくん」への登録はこちらから <http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/mamorukun/>